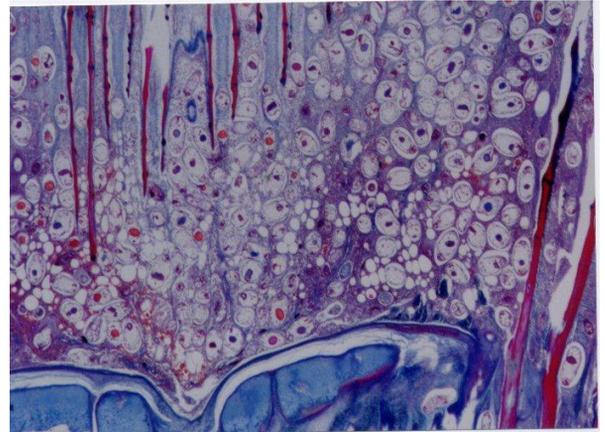


腹口吸虫症 (parabucephalopsiosis)

Parabucephalopsis parasiluri Wang



出血症状を呈したオイカワと寄生したメタセルカリア幼虫



罹病したオイカワ尾鰭部の病理組織像(無数の楕円形はメタセルカリア幼虫)

発生生態

コイ科魚類(オイカワ、コウライモロコ)の目や鰭に出血症状を引き起こし、衰弱、死亡に至らず病気で、これまでは宇治川水系でのみ発生しています。原因は、上記腹口吸虫のメタセルカリア幼虫の重篤寄生によるものです。

本寄生虫の第1中間宿主は、淡水性イガイであるカワヒバリガイで、第2中間宿主がコイ科魚類です。終宿主はビワコオオナマズと考えられています。コイ科魚類への感染は、水温が低下する冬季に起こります。

防除対策

カワヒバリガイからセルカリア幼虫が大量遊出する冬季に河川流量が低下すると、寄生数が急激に増加して発病すると考えられています。冬季に河川流量低下を防止できれば、効果があると考えられます。一方、中間宿主であるカワヒバリガイの生息域拡大を防ぐことも重要です。